

「秋田大学学生海外短期研修支援事業」実施報告書（参加学生）

平成 27 年 8 月 21 日

所属：医学部 保健学科看護学専攻 学年 3 年次

氏名：太田 友里恵

研修先大学・機関名等（国）：王立ブータン大学保健学科（ブータン）

在籍身分：学生

渡航年月日：H27 年 8 月 10 日

帰国年月日：H27 年 8 月 23 日

○研修先での学習内容等

多様な医療施設が展開されているため、各施設の見学やインタビューを行い、どのような患者、疾患、設備が整っているのかを尋ねた。病院実習では見学を主に行い、ベットメイキングやオーラルケアなど簡単なケアを行った。授業へ参加したり、現地の生徒の学習方法や授業の仕方、それに対する生徒たちの反応などについて日本との違いを比べたり、生徒に日本の授業を説明したりした。

○研修期間の生活面について

とても快適であり、生活に不便はほぼなかった。大学近くのホテルを取って頂けたので、朝は 10 分程度歩けば大学に着いていたため便利であった。水は飲料水としては適さないので注意しなければならなかった。大学の先生方が昼食や夕食によく連れて行ってくれたので、とても感謝している。

○研修期間全般にわたる感想

初めて海外の医療に触れ、日本との違いに驚いた。ブータンは決してまだ先進国ではないのに地域医療が充実していることがこの国の魅力の 1 つだった。日本も今、地域医療の必要性が言われているが、ブータンの方がより具体的な対策が取られているような印象を受けた。また、東洋医学も混ざっているため、日本よりもより多職種で病院等が構成されていた。多職種で密な連携が取れることは日本でも重要である。

○今後の勉強計画

今回このプログラムにおいて良かったと思う点は比較的英語が聴けたことだ。しかし自分の意見を言うとなると、戸惑ったり、言いたい単語が出てこなかったりと、アウトプットの練習の必要性を感じた。また、海外の医療を学ぶことで、日本の医療を学ぼうとする意欲が増しました。機会があれば、ブータン以外の国の医療事情も学習したいと思った。

